

課題管理実施報告書
第3回日中科学フォーラム「感染症予防と管理」

報告日：10年 3月 23日

プログラム	アジア科学技術の戦略的推進
課題名	アジア科学技術コミュニティ形成戦略
実施日	2010年 3月 15日(月)～16日(火)
場所	東湖賓館(中華人民共和国湖北省武漢市)
形式	シンポジウム 展示物：なし
対象者	一般 学生(大学)
来場者	人数：約120名(内訳、日本側参加者約30名、中国側参加者約90名等)
周知方法	HP, メール発信
実施者	○実施取り纏め者を記載 日本側 組織委員長：宮村 達男 国立感染症研究所 所長 事務局：日本学術振興会地域交流課 中国側 組織委員長：聞 玉梅 復旦大学上海医学院病原微生物研究所 所長 現地運営担当者：楊栄閣 中国科学院武漢ウイルス学研究所 副所長
内容	○実施内容を具体的に記載 1. 名称 第3回日中科学フォーラム「感染症予防と管理」 The 3rd China-Japan Science Forum: Diseases Prevention and Control 2. 主催・後援等 主催：日本学術振興会(JSPS)、中国国家自然科学基金委員会(NSFC) 協力：中国科学院(CAS) 運営：中国科学院武漢ウイルス学研究所(WIV) 3. 日程 2009年3月15日(月)～16日(火)(2日間) 4. 会議プログラム(詳細は別紙1参照) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><u>第1日：3月15日(月)</u></p> <p>8:30-8:50 開会式 福西 浩(日本学術振興会北京研究連絡センター長) 張 英蘭(中国国家自然科学基金委員会国際合作局亜非処処長) 陳 維平(中国科学院国際合作局高級業務主管) 陳 新文(中国科学院武漢ウイルス研究所所長)</p> <p>8:50-9:50 セッション1：基調講演(30分×2題) 聞 玉梅(中国工程院院士、復旦大学上海医学院病原微生物研究所所長) 宮村 達男(国立感染症研究所)</p> <p>9:50-10:05 記念撮影</p> </div>

10:05-12:25	セッション2：肝炎（9題、チェア各20分、他各15分）
12:25-14:00	昼食
14:00-15:40	セッション3：結核（6題）
15:40-15:50	コーヒーブレイク
15:50-18:00	セッション4：インフルエンザ（8題）

第2日：3月16日（火）

8:30 -10:40	セッション5：HIV/AIDS（8題）
10:40-10:50	休憩（中国側スポンサー企業による発表あり）
10:50-13:00	セッション6：細菌（8題）
13:00-13:10	全体講評・閉会式（脇田副委員長）

1日目（3月15日）の午前は、開会式に続いて、日中双方の組織委員長による基調講演が行われた。中国側組織委員長の間玉梅中国工程院院士・復旦大学上海医学院病原微生物研究所所長は中国におけるB型肝炎の最新の研究成果について、日本側組織委員長の宮村達男国立感染症研究所所長は感染症分野における日本と中国及びアジア諸国との協力の取り組みについて講演を行った。基調講演後、日中双方の参加者による記念撮影が行われ、その後、昼食・コーヒーブレイクを挟みつつ、肝炎・結核・インフルエンザの3つの分野について、日中双方から最新の研究成果について発表が行われた。会場周辺の武漢大学をはじめとする大学・研究機関から多くの研究者・大学院生が参加し大変盛況だった。

2日目（3月16日）は、HIV/エイズ、細菌の各分野で日中双方の研究者による発表と質疑が行われた。前日に引き続き多くの聴講者が参加した。



開会式の模様



発表セッション



日中参加者一同による記念写真

○実施した効果を具体的に記載

- ・今回、中国の研究助成機関である中国自然科学基金委員会（NSFC）が今回正式に主催機関として参画した。これによりNSFCの正式の会議として認定されるとともに、中国側参加者への旅費・滞在費をNSFCが支援することとなり、前回より幅広い中国側研究者の参加を得ることができた。
- ・現地の研究所を運営機関としたことにより、会議の周知にあたり中国側のチャンネルを利用できたため、前回（約50名）を上回る90名以上の中国側参加を得ることができた。参加者には付近の大学、研究所の大学院生、若手研究者が多く含まれており、今後の交流機会の拡大が期待できる。
- ・また、新華社、人民日報、中国科技時報等の報道機関による取材が行われ、中国側の関心の高さが示された。

○ 実施上の問題点を具体的に記載

今回春節休暇明けから2週間での開催となったが、この時期は①春節休暇が間に入るため、プログラムの詰めや参加者の日程の最終調整等の準備作業に支障が生じる、②中国国内での研究費の申請時期であり多くの研究者はそれに時間を割きたいこと、などから大規模な会議を開催するには不適切との意見が中国側より出された。

○ 今後のコミュニティ形成に向けての展望と課題を具体的に記載

- ・今回参加した肝炎、結核、インフルエンザ、HIV/AIDS、細菌の5つの分野のうち、すでに共同研究に取り組んでいるグループもあるが、今回が初めて中国と交流するという参加者もあり、今回のフォーラムを契機として、今後はそれぞれの専門分野における交流が進展することが期待できる。
- ・今回はNSFCが正式に主催機関になったことにより、中国国内における正式な会議として認定された。このため、今回参加した中国側の研究者は、なんらかの形でNSFCまたは政府から資金を得ているPIクラスの研究者であり、今後の中国とのネットワークを拡大していく上で、彼らとのチャンネルは重要である。